

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児工業高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和6年6月5日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 可児工業高等学校 会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者 委 員 大杉 守平 中恵土自治連合会会長
古山 友生 可児市立図書館長
山内 糧子 元本校PTA役員
村瀬 由香 元本校PTA役員
各務 眞弓 NPO法人可児市国際交流会協会事務局長
日比野 光伸 本校同窓会副会長
高野 眞弓 本校PTA副会長

学 校 側 中西 竜也 校長
松井 さおり 事務長
青山 知喜 教頭
熊崎 俊介 教務主任
三輪 武 生徒指導主事
林 貴康 進路指導主事
宮田 忠夫 工業部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和6年度教育指導の重点及び学校運営計画

今年度の学校教育目標ならびに3つの方針(スクールポリシー)、教育指導の重点、それらの達成に必要な具体的な取り組み・方策について、参加委員全員からの承認を得た。

(2) 本校に対する意見・提言

意見1:外国にルーツをもつ生徒は何人くらい在籍しているか。また、オーストラリアの姉妹校との交流において、相手校の生徒とはどのような関わり方をしているか。

⇒外国にルーツをもっているけれども日本の名前で生活している生徒もいるので、具体的な人数は把握していないが、どのクラスにも数名は在籍している。姉妹校との関わり方は、来

日の時だけでなく、英語の選択授業などで事前にWEBを使って定期的に交流したり、英語のスピーチコンテストに挑戦するなど、生徒が活躍できるような多くの場を設けている。

意見2：この地域では「多文化共生フェスティバル」といった催しも行われており、工業科の地域連携事業のみならず、今後は文化交流的な事業にも参加できるとよい。

意見3：可児市も公民連携事業を進めており、カニミライブというSNSでの情報発信も行っている。今は自ら積極的に情報発信していく時代に移り変わっており、新入生確保に向けてインスタグラム等のSNSを積極的に活用している取り組みは、非常によい。

意見4：本校の取り組みをマスコミへ取材依頼する場合は、どのようなルートで行っているか。
⇒工業部の取り組みについては、各学科主任から各新聞社等に取材依頼をしている。

意見5：就職の求人倍率が非常に高いが、東海圏など近隣からの求人に限るとどの程度か。
⇒細かな数字は出せていないが、平均して全国から求人が来ているわけではなく、愛知県と岐阜県からのものが多くを占めている状況である。

意見6：地元就職が多いという状況は、可児市にとっても非常に喜ばしく、今後も地元を盛り上げて行ってほしい。

意見7：タブレット端末は配布されているのか各自で用意しているのかどちらか。また、それらを使って心のアンケートなどを実施しているのか。
⇒タブレット端末は県から一人一台貸与されている。心のアンケートに関しては、個人のスマートフォンからでも回答できるため、そちらの使用率の方が高い。

意見8：授業参観で実習の様子を見たが、最先端の機械や装置がないと今の時代についていけない。それらの予算確保は学校が行うのか県が行うのかどちらか。
⇒県が行う。県も毎年少しずつ更新を行っているが、予算には限りがあるので古い機器を使わざるを得ない状況もある。

意見9：本校の現状として、部活動加入率が約75%と減少傾向にあり、中でも生産系と言われる「ものづくり」に取り組む部活動の部員数が激減している。教職員として地元のイベント参加など、できる限り前向きに取り組みたいと考えているが、生徒や職員に過度な負担となる場合は、参加できない場合もあることを理解してほしい。

意見10：学業も大切だが、生徒が困ったときに信頼して相談でき、安心して通える学校であってほしい。

6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・地元地域の方々や外国文化をもつ人たちとふれあう機会を設けるなどして、本校を積極的にアピールすると同時に、多様な価値観を受け入れていく生徒を育成していく必要性を認識した。
- ・委員の方々の貴重な意見・助言をもとに、今後も地域との連携を大切にしながら、地元の産業ならびに活性化に貢献する人材を育成していきたい。